

ロボコン中国地区大会が松江市で開催

全国高専ロボコン2018中国地区大会は、今年10月21日(日)に松江市の鹿島総合体育館で開催されます。今年はネット上で人気の「ボトルフリップ」というスゴ技にロボットが挑戦します。8つのテーブルにペットボトルを投げてかっこよく立たせる競技で、1チーム2台までのロボットが20個まで投げられます。それぞれのフィールドはフェンスで区切られておりロボット同士の接触はありません。是非応援しましょう!詳しくは、HP <http://www.official-robocon.com/kosen/>をご覧ください。

2017全国大会

12月3日(日)有明コロシアム 松江高専「八百万の亀々」2回戦敗退

2017中国地区大会

10月15日(日)周南市

松江高専Aチーム「八百万の亀々」

準決勝敗退(ベスト4)全国大会出場 アイデア賞・特別賞(ローム賞)受賞

松江高専Bチーム「accura_G」

1回戦敗退 特別賞(本田技研工業賞)受賞

昨年の結果

部活動の今

男子バスケットボール部

松江高専男子バスケットボール部は現在、新入部員11名を迎えた総勢40名で活動しています。

本校バスケ部の歴史は非常に輝かしく、中国高専大会は現在25連覇中、全国高専大会では平成27、28年度に2連覇をするなど、過去14回の優勝を誇っています。先輩方が積み上げてきた伝統には尊敬の念を抱いており、同時に簡単には壊せないという責任感も持っています。私たちがその伝統のひとつになれるよう、高専大会に向けて日々練習をしています。

私たちは、「低身長でも戦えるバスケ」を目指しています。私の知る限りですが、過去に全国優勝した時代のメンバーであっても、突出して背の高い選手や身体能力の高い選手はいませんでした。特に今年のチームは最高で180cm強程度と、他チームに比べればかなり小柄です。その中でどうやって戦っていくか。それは、「当たり前のことをしない」という考えです。例えば通常、小柄な選手は外、大柄な選手は中でプレーをします。よって、シュートが外れたこぼれ球は大柄な選手が競い合うのが一般的です。しかし、私たちは中にいる選手が相手の大柄な選手を抑え込み、そのスペースに外の選手が飛び込んでボールを取るなど、全員で競い合うことを徹底しています。このように、他チームの当たり前を当たり前にしないプレーに松江



高専バスケ部の強さがあるのだと思います。先輩方が証明してきた、「低身長でも戦えるバスケ」を私たちが継続していきます。

昨年12月の西日本高専大会では思うような結果が残せず、チームが迷走していた時期もありました。しかし、一人ひとりのコート上での役割をはっきりさせたり、社会人や県外高校など格上チームとの試合から経験を重ねたりすることで無事、今年の中国高専大会も優勝することができました。続く全国大会でも勝てるように、そして先輩方や学校関係者の方々、地域の方々に応援していただけるようにチーム一丸となって頑張っていきます。今後ともご支援、ご声援の程宜しくお願いたします。(電子制御工学科5年 金塚 直希)

ESS部

私たちESS部は、現在部員21人で活動しています。昨年度は7人、今年度は3人の新入部員を迎えさらに部活が活気づいてきています。ESS部では毎週火曜日に部会を開き、主に英語でのゲームやディベートなどを行っています。

ディベートは今年度から部活で取り組み始めた活動です。部員が2チームに分かれ、ある論題について賛成や反対かを英語で討論します。1回目のディベートでは、「英語の辞書は紙の辞書を使うべきである。是か非か。」という論題で行いました。私は否定側で電子辞書派でした。なぜ電子辞書がいいのか、根拠となる、例えば領紙など



のデータを集め、それを英語で話したり、相手の質問に対してその場で英語で答えたりすることは難しかったです。しかし、普段の授業ではあまり実践できないスピーキング力を磨いていると感じています。また、このように普段はあまり気にすることのない話題について討論することで、自分の知識や世界を広げることもできています。

ゲームは毎週部員で考えて行っています。最近では、英単語のカードの意味を英語で聞いて見つけるカルタや、イラストを英語で説明して何が描かれているのかを他の人に当ててもらうゲームをしました。このようなゲームなどを通して、楽しく活動しています。

近年は、コンテストにも積極的に参加し、良い成績を残すことができています。昨年度は中国高専英語スピーチコンテスト・プレゼンテーション部門で優勝を収め、全国大会に出場することが出来ました。また、「ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト」で八雲会奨励賞を頂きました。今年も、秋の大会に向けて準備を始めています。

他にも、松江高専で行われる留学生交流会などにも参加しています。また、部員の中には語学留学をする人も多く、英語力向上を目指して一人一人が努力しています。

これからも、個人個人の英語力の向上だけでなく松江高専と海外の交流の架け橋となるよう積極的に活動していきますので、ご声援よろしくお願いたします。(環境・建設工学科3年 村上 穂香)

編集後記

同窓会報の発行準備作業のため母校を訪れることが数回あったのですが、校内(特にロータリーと書いていた部分など)の佇まいが在籍していた当時とほとんど変わっていないのに感激しました。

さて、来年は同窓会設立50周年を迎えることとなりました。目下のところの最大の関心事はその記念事業をいかに実施するかということですが、50年といえは半世紀です。「昭和」、「平成」と時代をつなぎ、卒業生の数も8,000人にもなろうとしています。巨大な組織となった同窓会会員相互の連携をどう取っていくのかも大きな課題です。

その連携のひとつとして、定例の「同窓会報」発行作業も春以来、粛々と進めてきており、やっと完成の運びとなりました。

さしあたっての願いは、苦勞して完成させた第8号同窓会報を一人でも多くの卒業生の方にお届けできればと思っています。

松江工業高等専門学校

同窓会 会報

第8号

2018.8.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 鳥取県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内
TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: m-soumu@matsue-ct.jp

<http://www2.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

50周年を迎えるにあたって

松江工業高等専門学校同窓会 会長 陶山 知政 (24期・土木)



平成が幕を下ろすまで1年を切った今日この頃、松江工業高等専門学校同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にて国内外でご活躍のことと思います。

さて、本同窓会は1969年(昭和44年)に設立され、現在では7,800名を超える会員数となり、いよいよ来年には同窓会設立50周年を迎えることとなります。

そのことから、今年度は理事会メンバーを中心に50周年の記念事業を開催すべく企画など準備に取り掛かったところです。

これまで本会設立の節目には、式典の開催や記念植樹、学校へのマイクロバス寄贈などを行っていますが、今回は、特に半世紀という大きな節目であることからできるだけ多くの会員の皆様に関わりを持っていただけるような内容を企画してまいりたいと思っています。

今後、記念事業の内容等、具体的に決まりましたら、同窓会ホームページや会報でお知らせをさせていただきますのでご覧いただけると幸いです。

ここで会員の皆様にお願ひさせていただきます。先に述べましたとおり、現在では、同窓会の会員数も7,800名を超える規模となり、会員の消息を把握することが大変困難となっていることから、事務局では、まずは各クラスの代表者の所在を把握することに努めているところではありますが、全ての代表者の所在把握がまだにできていない状況です。

なんとか皆様の協力を得て代表者の皆様と確実に連絡が取れる体制を構築し、更に代表者の皆様を起点に会員の皆様への情報伝達を行いたいと考えていますのでよろしくお願ひいたします。

少しでも本同窓会が会員の皆様にとって身近な存在に感じただけよう努めてまいりますので、より一層のご理解とご支援を頂きますよう重ねてお願ひいたします。

日々是好日

松江工業高等専門学校 校長 平山 けい



日頃松江高専同窓会の皆様から頂く母校へのご支援ご協力が心より感謝申し上げます。昨年度は、同窓会と後援会からの大きなご支援のもと新しいマイクロバスを購入することが出来ました。長年使用していたマイクロバスに不具合が多々生じていました。大会へ向かう学生を乗せ、寒い冬の最中高速道路上で動かなくなるという事態が発生し、学生の安全を憂慮していました。

お陰様で最新型のバスを購入いただき、校外学習・課外活動等に有効に活用させていただいています。旧型バスと異なり「シートが柔らかくすわり心地がとても良い」「長時間乗っていても疲れない」と学生からは大変好評です。本当に有難うございました。

さて、日本全体で働き方改革が進む中、教員の負担軽減が話題にあがることが多い昨今です。小中高だけでなく、高専に対しても大きな改革が求められています。教育・研究・地域貢献は勿論のこと、幅広い年齢層の思春期の学生の教育指導に当たる高専教職員の負担は大きなものがあります。寮の宿直業務等もあり、負担加重を少しでも減らすために改革を少しずつ進めていかなければなりません。

ん。部活動に対しては同窓生が在籍していた頃と異なることで、ご意見を頂くことがございます。開校から50年余りを経て、社会が求める高専教育に対する役割は大きく変化しています。本改革は高専の教育体制整備の一環としても大変重要な事柄であることをご理解いただきますようお願い致します。

一方では、世の中の流れが大きく変わりつつある中で、地域貢献の一環として本校ではリカレント教育の充実に力を入れております。最新の知識や技術が必要になった時、母校松江高専の門戸をたたいて本校学生と一緒に新しい学びを取り入れていただければ幸いです。

最後に、本年度の中国地区ロボコン大会は本校が主幹校となり、松江市鹿島体育館で10月21日(日)に行われます。同窓会の皆様にも是非足をお運びいただき、松江高専を学生・保護者・同窓生・教職員一丸となって盛り上げ応援できることを願っております。ロボコンに限らず、母校松江高専の学生は、熱き想いを持った教職員の下、それぞれの力をそれぞれの場所で発揮するために日々邁進しています。今後も母校のさらなる発展と後輩学生達のためにこれまで以上の暖かなご支援をいただきますよう心よりお願ひ申し上げます。

松江高専同窓会設立50周年記念概要

【記念式典・祝賀会】

○日時: 2019年11月3日(日) (予定) ○場所: 松江市内(未定)

〈式典〉15:00~17:00 〈祝賀会〉17:30~19:30

- ・式典(主催者挨拶・祝辞・記念品贈呈等)
- ・基調講演(出演者未定)
- ・祝賀会(卒業生ライブ等、卒業生が楽しめるものを企画・検討中)

【関連事業】

○マイクロバスの贈呈(平成30年1月贈呈済み)

○寄付金付き記念グッズ製作、学校だより集等の作成(調整中)

※詳細については来年8月の会報等でお知らせします。
記念事業(案)について、ご意見やご提案がありましたら同窓会事務局(学校内)まで。

学校にマイクロバスを寄贈

松江高専同窓会では、同会設立50周年の節目として、学校にマイクロバスを寄贈しました。マイクロバスは校外学習、課外活動等に利用されていますが、2代目のバスが更新時期をむかえたため、後援会と一緒に購入しました。今年1月28日(日)10時から学校において贈呈式が行われ、陶山同窓会長、形岡後援会長から平山校長、中村学生会長にバスの鍵のレプリカが渡されました。利用者を代表して中村愛梨学生会長から感謝の言葉が述べられた後、寄贈者を代表して陶山会長が「このバスを利用して学生がますます活躍することを祈念する」旨のあいさつをしました。最後に平山校長から「松江高専の学生の教育活動のため有効に活用していきたい」とお礼のあいさつがありました。



会員の声

2名の会員の皆様、松江高専に対する想いを綴っていただきました。



INIAD (東洋大学情報連携学部)
助教 浅野 智之 (10期・情報)

松江高専を卒業してから12年、専攻科を修了してから10年が経過し、卒業時には予想もしていなかった、大学教員という仕事をしています。新設学部で、建物も新しい環境で2年目を迎え、日々奮闘しています。学生さんたちの様子を見ると、高専在学当時の記憶と重なることも多くあり、どこか懐かしさを感じることもあります。

大学院進学のために東京に出てきたときに、ふと気がついたことがありました。それは東京に出てきている松江高専の卒業生同士のつながりが少ないことです。私自身もそうなのですが、たまに会う同級生や先輩・後輩は高専を卒業した後でも進路や転職等でそれぞれ悩みを抱えています。同じ母校を出た卒業生同士、世代を超えて相互に助け合うような文化、共助の仕組みが生まれるといいのではないかと考えました。また情報工学科は私が10期生であることから歴史がほかの学科に比べて浅いので、1期生から卒業してすぐの世代までを集めることが比較的容易ではないかと考えました。

そこで最初に始めたのは、私の恩師でもある情報工学科名誉教授の福岡先生の遺志のお祝いを5年前に都内で開催したことをきっかけに、それから年に1回、5〜7月頃に私の数個先輩の世代から卒業してすぐの世代までをボリュームゾーンに、幅広い年代から約50名にも及ぶメンバーが集まって情報工学科同窓会を開催しています。この会でOB/OGが親交を深めるだけでなく、最先端の技術の話題や、転職活動の支援、仕事の依頼等、変化の早く個人事業主も多いICT分野ならではの内容で盛り上がっています。今年からは秋頃にも開催を検討しています。とても気軽な会ですのでぜひご参加ください。詳細は私までお問い合わせください。

その一方で、この流れを情報工学科だけではなく、松江高専のOB/OG全体にも広まっていくとうれしいと思ひ、微力ながら松江高専同窓会関東支部の設立や運営に協力しております。松江高専同窓会関東支部では、毎年冬、高専ロボコン全国大会の時期に合わせて同窓会を開催しています。こちらもこれからどんどんおもしろくしていきたいと考えていますので、ぜひ皆様ご協力ください！詳細は<https://www.matsue-ct.tokyo> または Facebookグループ(招待が必要なのでぜひ私までご連絡ください)をご確認ください。

現役の学生のみならず卒業して関東に出てきたら、こういった機会にぜひ一緒にお話ししましょう！

今後このような共助の取り組みを通して、松江高専および卒業生の皆さんのさらなる発展に貢献していきたいと考えていますので、今後ともご協力の程、よろしくお願ひいたします。



松江市議会議員 森本 秀歳 (10期・生産機械)

2年ほど前、出張先でふらりと入った居酒屋での出来事。カウンターの席に先客が一人。何気なく話しかけたところ、関東地方の高専(どこか忘れましたが)出身とのこと。意気投合し、その後数件もハシゴしてしまいました。20数年前にも、会社で新設備を導入するとき、メーカーからやってきた担当者も聞けば、高専(どこか覚えていません)出身。こちらも高圧的な態度が一変し、たちまち馴れ馴れしくなり、向こうも気をよくして、仕事もスムーズにはかどったなんてこともありました。

不思議なものです。母校は違えど、単に高専出身と言うだけで親近感を覚えるのは私だけなのでしょうか。クラスメートでもなく母校も違ってもこうなのだから、出身校ともなればなおのこと。親近感どころでは無いですね。

卒業して35年、現在勤務している三菱マヒンドラ農機(旧:三菱農機)には、グループ会社合わせて50名を超える高専出身者が在籍しています。残念ながら、同期の桜どころか同期に在学していたという社員はいませんが、それでも同じ学舎を卒業した者同士、お互い仕事上でなにかと世話になったり世話をしたり。松江市議会議員になって8年目となり、仕事柄市役所にも出向く機会が増え、ここでも高専出身者が多いです。いろいろ助けてもらっています。出身校が同じ仲間がいるというのはありがたいことです。

あらためて考えてみると、高専生は10代の青春真っただ中の時期に、5年間も同じ学舎で過ごすわけですので、高校生の3年間と違い何か特別な感情が息づくのではないかと。卒業したばかりの頃はそこまで考えもしなかったのですが、年のせいなのか、懐かしいものを求めたりする年頃なのか、最近そんなことを感じます。

来年、松江高専同窓会は設立50周年を迎えます。これまであまり気にも留めていなかったのですが、高専卒業生というのは特別な存在であることは間違いないと思ひます。皆さんにとって、同窓生、同窓会ってどんな存在なのでしょう。この50周年を迎えるにあたり、ちょっと考えて見られてはいかがでしょうか。そして、一人ひとりがこれを契機に同窓会に思いを寄せていただければ幸いに思ひます。

末筆に、松江高専同窓会のますますのご発展をお祈りいたします。



平成29年度 定年退職教員 紹介

昨年度をもって、門脇健先生、越田高志先生、松崎靖彦先生の3名の先生方が松江高専を定年退職されました。その3名の先生方にお言葉を寄せていただきました。



同窓会の発展を祈ります

機械工学科 門脇 健

私は、親父の所有する大型船の船用ディーゼルエンジンに3歳の頃から興味をいだき、そのまま本校の機械工学科に入りました。本校卒業後は、大学助手やメーカー勤めなどを経験し、昭和60年から32年間は、本校でも熱力学の教鞭をとり続けていただきました。この間、苦楽はもとより、学生や教員に関する切ないことも多々ありましたが、優秀かつ誠実な学生諸君の存在、保護者様のご協力、心あたたかい歴代の教職員の方々のご支援ご鞭撻のおかげで、この3月末に無事に定年退職の日を迎えることができました。感謝申し上げます。

思い出話を少しさせてください。私は高専赴任時から8年間は助手の立場でしたので、公務は月2回程度の寮の宿直、パレー部の引率と夕食プレゼント係、同窓会事務・会計係の仕事しかなかく、大変な日々を送っていました。放課後になると同窓会総会・理事会の案内業務の作成作業などを、宮内先生や今尾先生と一緒に、ぶつぶつ言いながら手書きで辛抱強く行いました。また、校長先生の時代には、学校と同窓会の初めての懇親会を皆で企画し、その数年後のマイクロバス贈呈につながりました。北公園に軽トラで植樹に行ったのもその頃だったと思います。また、退職教員に贈呈する記念品係として、亀谷先生と一緒に自転車で絵画を買いに行ったことも、今となればよき思い出です。

バブル期の頃は、同窓会館の設立が私ども理事全員の夢でしたが、結局は叶いませんでした。宮本校長の時代に、部活動のためのマイクロバスを購入することになり、同窓会基金はその原資になりました。その甲斐あってか、本校の部活動は大変活発になりました。最近、試験数日前にもかかわらず、公認欠席で高校の大会に参加する学生もいます。時代は変わりました。しかし、今後はもっと勉強を活発にする番です。

今年の6月には、学内の同窓会有志が、私ども高専OB退職教員の送別会を行ってくれました。私はそのことが大変うれしく、心あたたかい後輩OB教職員の存在を誇りに思ひます。そのことを肝に銘じ、今後は陰ながら松江高専を支援して行きたいと思ひます。同窓会館設立の夢は消えましたが、同窓会室であれば、可能性が残されていると思ひます。特に勉強に燃える学生を対象とした相談と懇話の場所として、同窓会室ができることを願っております。必要でしたら、私どもOB退職教員を勉強指導員としてご自由にお使いください。

同窓会ひいては松江高専の今後益々の発展を祈ります。末筆ながら、退職に際し、同窓会より記念品を頂きました。どうもありがとうございました。



高専在職中の思い出

情報工学科 越田 高志

毎年、7月初旬のこの時期になると、高専での高野連硬式野球部の監督時代を思い出します。10年前に約4年間監督を務めました。昨年度教員として母校に赴任した中西先生(電子制御工学科)が高専2年生(機械工学科)で捕手として頑張っていた年から4年間監督を務めました。夏の大会前のこの時期は17時前くらいにグラウンドに出て、連日ノックで汗を流していたことを思い出します。練習試合でもなかなか勝てなくて、勝つのは大変だと実感していました。

私が選手だった時より、監督として勝つのはなんと難しいことか、と実感していました。監督就任1年目の夏の大会では、1回戦で明誠高校と対戦して、5対2で勝利することができました。翌年、中西選手が3年生で最後の夏の大会では、一回戦で益田翔陽高校と対戦しました。この試合は小雨の中、先発の渡部投手が素晴らしく、途中までしっかりと投げてくださいましたし、バックもエラーなくしっかりと守り、8回終了まで2対1とリードされていました。締まった良いゲーム展開でした。9回裏、中西選手からの攻撃で、彼がセンター前のクリーンヒットで出塁、足を痛めて中(なか)選手と交代し、その後、2本のヒットで中西選手と坂野選手が生還2点を取り、なんと土壇場で3対2と逆転しました。その裏、9回裏を抑えれば昨年に続いて1回戦突破です。土壇場で追いつき、逆転した結りに驚き、興奮していました。9回裏、雨脚が強まった感がありました。グラウンドも水たまりができる状態でした。渡部(わたなべ)投手と交代してここまでしっかりと投球していたコントロールの良い2年生山根投手も雨で滑ったのか、四球を出し、守備にもエラーが出て、そこからヒットも打たれて同点となりました。でも、同点止まりで凌げば、延長に入り仕切り直します。何とか頑張ってこの回を1点止まりでと願っていましたが、最後はレフトオーバーでサヨナラ負けとなりました。四球の後、エラーで1.2塁になった時に、タイムを取り、一呼吸を入れていけば、と後で悔やみました。監督として、タイムを取る余裕がなかったと悔やみ、反省した試合でした。もう少し勝てたかも知れない。でも、練習試合でもなかなか勝てなかったチームが3年生最後の公式戦で良い試合をしてくれた充実感もありました。

試合後の最後のミーティングでは、登録を外れましたが、最後までしっかりと取り組んでくれた2人の3年生に感謝し、労いました。悔しい気持ちもあったと思うけれど、最後まで頑張ってくれました。日々、部員全員が真剣に練習に取り組んだので、勝利することはできませんでしたが、良い試合が出来たと思ひます。その時、その場でやるべきことを100パーセント集中してやること、その積み重ねが良い結果につながると思ひます。高専硬式野球部ナインの活躍を祈念しています。頑張れ！高専野球部！

退職に際し、同窓会より立派な記念品を頂き、どうもありがとうございました。皆様方の今後のますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。



環境・建設工学科 松崎 靖彦

平成25年11月より今春までの4年半を教員として迎えていただきました。神戸の鉄鋼メーカー勤務、松江へリターンして建設コンサルタント勤務を経てのわか先生でありました。

【学内の様子】朝の1コマ目の終わりに10分間のお掃除タイムがあり、学生全員で教室や廊下の掃除をします。校内には清潔感が溢れます。またすれ違う学生からは、「こんにちわ」の挨拶が聞かれます(一日に何度会ってもコレを言うのでちょっと変でもある)。他の高専が羨むほどでもあり、礼儀作法に対するしっかりした指導がなされていると感じました。

【学業】私が在校生だった、なんともう40年近く前！は、高学年になるほど勉強をしていた(と思う...)のに対して、多くの高学年には逆の傾向があるようです。我が環境・建設工学科では女子学生が増え、今の2〜4学年ではクラスの半数を占めており、私の学生時代の思い出などは浦島太郎のお話のようなものです。

【先生職】若任早々4年生のアドバイザー(ほぼ学級担任)を拝命。私にとって、何ものにも代え難い経験をさせていただきました。学級担任って教員の醍醐味だと一大奮起したつもりでしたが、企業での経験だけではさすがに不足。数々の言葉足らず、個々の学生諸君たちの気持ちや思いを十分に汲みとれたかどうか、物足りない思いをさせたならごめんない。担当した科目では、測量学の初めて触る測量器械に皆々としてのぞき込む低学年生の姿や、橋梁工学でのこごわ取り組んだアーチ橋実習での5年生君の姿が今も目に浮かびます。アドバイザーとしてともに過ごした諸君、授業で、卒研で一緒に勉強した学生諸君たちには、とても愛おしい思い出一杯です。彼ら、彼女らが同窓会の皆さまの下で厳しく磨き上げられることを期待しております。

末筆ながら、退職に際して同窓会より記念品をいただきました。心よりお礼申し上げます。